

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



Inside of your heart



～心の中をのぞいてみよう！！～

表紙 利用者作品(左上より:中塚亜弓さん・川島徹さん・辺見強さん 左下より:斉藤奏恵さん・小松達也さん・政野光岳さん)

【2012年 秋号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り・研修報告	P 3
◇自閉症について・作品展のお知らせ	P 4・5	◇ヘルパー便り・ケアホーム便り	P 6
◇決算報告	P 7	◇後援会	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コープ野村 6-109
毎月15日発行 購読料1部 50円

こだわりを託す

今年の夏も猛暑になり、テレビでは熱中症に注意して下さいとか、やれ水分補給だ・節電だとか、あの暑かった夏にも終わりを告げ、いよいよ秋本番となりました。

「暑さ寒さも彼岸まで」と昔から云われておりますが、不思議ですネ！残暑はありますが、お彼岸が過ぎれば暑さが和らぐ。これは誰が決めたのでしょうか？日本の季節暦は素晴らしいと思います。もしかしたら、今が旬の映画『天地明察』で、V6の岡田准一が演じる江戸時代前期に暦作りに命を掛けた実在の人物【安井算哲】という方が決めたのだろうか。でも、もっと素晴らしいのは我が家の次男坊です（やまびこ工房でお世話になっております）。

季節の変わり目に敏感で??（但し、半年周期ですが）衣類で云えば、6月1日からは半袖・10月1日からは長袖、もちろんパジャマも掛け布団も取替えられます。毎週日曜日の夕食は6月1日から手巻き寿司・10月1日から鍋料理になります。それは家族の迷惑を顧みず、暑かろうが、寒かろうがかたくなにこだわりを実行いたします。

さて、子ども達について云えば今一番の関心事は親なき後どうするかがテーマです。

先日、厚木市社会福祉協議会主催の『成年後見人育成講座』が5日間の日程（1回2時間コース）であり、応募し受講する機会を得ました。

どちらかと云えば障がい者より、認知症高齢者に対する後見や悪徳商法による消費トラブル防止を主とした内容でした。只、成年後見制度の施行等の経緯がわかりましたので皆さんご存知かと思いますが、少し列挙してみたいと思います。

- ①成年後見制度は2000年4月に施行された、認知症高齢者・知的障がい者・精神障がい者等を法的に守り支える制度。
- ②制度には、法定後見制度（判断能力が衰えた後）・任意後見制度（判断能力が衰える前）の2種類がある。
- ③法定後見制度には後見類型（判断能力が全くない場合）・保佐類型（判断能力が特に不十分な場合）・補助類型（判断能力が不十分）の3つの類型がある。

福祉サービスの契約や預貯金の管理をするだけの判断能力がない場合（療育手帳A～B1の殆どが該当）、未成年者であれば親権者が契約に対応できるが、成人以後は成年後見制度の利用が検討されることになる（我々の子ども達には、本来後見人を付けるべきであるが、現状は親や兄弟がいれば施設との契約は行政も認めている。しかし、この状態が何時まで認められるのだろうか？）。

我々親はこれまで、子ども達を全面的に抱え込んで支えてきました。ですから自分の死後は誰に託すかを皆さん常々考えていると思います。また、兄弟たち（我が家は二人とも障がい者）にも親が背負ってきた重荷を担わせたくないのが本音でしょう。でも、なかなか適当な人は見つからない。『親なき後』への危惧は深刻である。

親として避けて通れない問題は重々承知しているが、どう云う形で行動を起こして行くのか？あなたの家はどうしますか？待ったなしですヨ。

風の谷後援会会長 佐藤 辰男



「相模原自閉症支援センター便り」

最近ある職員と“自閉症の文化”について、それぞれの持つ違和感について語り合いました。“自閉症の文化”というフレーズは、自閉症支援の現場にいれば一度は聴いたことがあるのではないかと思います。そこに、「横浜やまびこの里」発行の広報誌内で中山清司氏がTEACCHのコアバリューについて寄稿されていたのを拝見して、今更ながら“自閉症の文化”という言葉について考えてみました。

Dr.ショプラーや佐々木正美先生が日本に自閉症の存在を広めてくださったときに、文化という言葉が使われました。文化の意味を調べてみると、「人間の生活様式の全体。人類が自らの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきた」とあります。文化とは先天的な要素よりも、圧倒的に後天的な要素の大きいものようです。そもそも自閉症は、先天的な脳の器質的な特徴ですから、違和感があるのは当然のようです。欧米人の自閉症者と日本人の自閉症者が同じ文化であるはずがありません。

それでは、文化という言葉を使って何を伝えてくださったのでしょうか？それは、自閉症の人たちの持つ「想像力」や「発想」の違いを理解して、個々の違いを受け入れる必要性を伝えてくださったのだと考えました。「意思決定支援」が叫ばれている今だからこそ、彼らの「想像力」や「発想」に常に寄り添い、より知りたいと思い続けることが重要なのだと思いました。

文化という言葉は、まだまだ自閉症に対しての誤解や偏見の多い中で、何とかして自閉症について正確に理解してもらうために使用してきた言葉だと思います。だからこそ、先生たちの言われる本質、コアバリューについて支援者一人一人が常に考えなければいけないと再確認しました。

自閉症支援者として本質を語り合える存在であり続けるために、これからも勉強していきたいと思えます。（相模原自閉症支援センター 西村）

研修報告 「障害者虐待防止法について」

つい先日、10月1日から「障害者虐待防止法」が施行されました。この法律は、処罰を目的としているわけではなく、障害者に対する虐待を防止することで、障害者の自立と社会参加を目指し、その権利擁護を目的としています。今回、それに先立ち「障害者虐待とその実態」（講師：鈴木敏彦氏）と「障害者虐待防止法と権利擁護」（講師：川島志保氏）という二つの研修に参加してきました。

虐待の内容については、大まかに五つに分類され、「身体的虐待」、「性的虐待」、「心理的虐待」、「放棄・放置（ネグレクト）」、「経済的虐待」となっています。この五類型以外にも多様な権利侵害が起こっていることで、普段からの支援や生活の中で権利擁護の視点がますます重要になってきています。

本人申し立てによって虐待と分かるのは全体の10%と言われていて、家族を含めた支援者の自覚が虐待の防止につながります。しかし、障害者虐待の判断にあたっては、「（支援者の）虐待をしているという自覚は問わない」こと、「障害者本人の自覚は問わない」こと、そして「親や家族、支援者の意向と障害者本人の意向は異なる場合がある」ということに留意する必要があります。また虐待を発見した場合は市町村に通報する義務があります。

実際には、一人一人の自覚だけに頼った支援には限界があり、当たり前のようなことですが、お互いがそのことを知った上で話し合いを持ちながら支援を進めることが大切だと思います。常に話し合うことは、自分とは違った見方やアイデアに触れることになり、より広がりのある支援に、そして虐待防止にもつながるのではないのでしょうか。

最後に講師からの、障害者防止法ができたからと言って虐待がなくなるわけではない、という言葉がありました。虐待は他人事ではなく、疲れている時、心に余裕がない時、そして一人になった時、本当に自分にも起こりうることだと思います。そうした自覚の上に立ち、現在行っている支援を今一度捉え直していけたらと考えています。（鹿野）



～自閉症について～

心の中にあるもの

自閉症者と関わっていると、「本当のところはどうなのだろう?」「頭のなかをのぞいてみたい」なんてことを思わず呟いてしまします。そういう時は、大概本人の訴えがわからなかったり、やり取りが上手いかず本当にしたいこととは逆のことを言うことがあったり、気持ちに寄り添いながら取り組んだのに、本人が不機嫌になってしまうことがあるからです。ただ、時に自閉症者の心のなかにあるものが垣間見られることもあります。

ある方は、サークル活動時に自宅からカセットテープを母に見つからないように(?)持ってきて、活動場所(けやき体育館)のゴミ箱に捨ててしまったのです。それ自体「なんだろう?」と思っていたのですが、さらに肩掛けポーチからデジカメを取り出して、ゴミ箱の中のカセットテープを撮影したのです。その写真はまだ目にしていませんが、みなさんも想像してみてください。

ある方は紙粘土で S 字状の管を作っていました。これは何かと聞くと、洗面台下のパイプだという。他の方でもトイレや洗面所のパイプを時に熱心に見る方がいます。きっと他にもそのような方がいて、その割合は自閉症者に多かったですりするのでしょうか?

ある方は段ボール紙にクレヨンで素敵な絵を描いて、その色合いも良いなと思っていたのですが、いつの間にか真っ黒に塗りつぶされていました。どうやら、あるテレビ番組のある場面のコマ送りを一枚の段ボール紙に上塗りしながら描いていたようです。塗りつぶされてしまう素敵な絵と本人の満足気な顔に、私たちの価値観では理解できないものを感じます。

今回はやまびこ工房で出来上がっている作品を通して、彼らの「心の中にあるもの」をいくつかご紹介したいと思います。

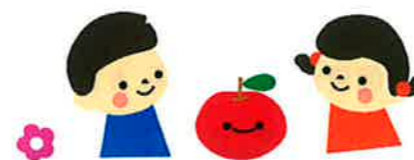
余暇活動で「漫画」や「絵本」を作っている A さん。

本人が好きなキャラクターを用いて、思わず「プツ」と笑ってしまう様な読み手を引き付けるストーリーが日々展開中。(絵本のセリフは A さんの頭の中に...)

出来上がった漫画は、いつも「見て!」「読んで!」となんとも嬉しそうに報告会を開催してくれます。

でも...実はストーリーに本人の「心の中にあるもの」が反映されていることが多いため、支援をする上でとても大切な情報源。

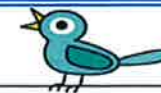
本人が楽しんで取り組んでいるからこそ、見えてくることや得られることが沢山あるのです。



短期入所時に絵を描くことが楽しみで、毎回ニコニコ顔で絵を描いている B さん。自由に絵を描くのは少し苦手なようなので、見本を見ながら描いています。この絵は左が見本で、B さんが描いたものが右の絵です。描かれた絵は元の絵とはまた少し違った、魅力的な味のあるタッチに仕上がっていますよね。「心の中にあるもの」がこの優しい絵の中に現れているような気がして、見ているこちらも毎回楽しみにしています。



休憩中に集中して絵を描いている C さん。気に入ったものにはクレヨンで色を付け、更に気に入ったものは自宅に持って帰ります。トイレに行く時も、散歩に行く時も、食事に行く時も大切な絵は肌身離さず持って行きます。本人の「心の中にあるもの」を投影しているようで、その日その時で描く絵は異なり(普段はアンパンマンのキャラクターが多いのですが)この日は戦隊ものを描いた C さん。この日の「心の中にあるもの」とは。



今年もやります!!

相模原やまびこ会 作品展

「ミロより優しく、ゴッホより激しく、ピカソより純真!」

そんな彼らの「心の中にあるもの」をぜひ感じてみてください。

11月23日(金) 11:00~19:00

24日(土) 10:00~19:00

25日(日) 10:00~15:00

問い合わせ : 080-8870-2733

art@sagami-yamabiko.jpn.org

<http://sagami-yamabiko.jpn.org/>



会場>おださがプラザ ラクアルオダサガ4F



ヘルパー便り 其の五

秋分の日、相模女子大学で発達障害の方の為の音楽療法サークルの2回目があり、今回もAさん、お母様と一緒に参加させていただきました。

前回とは違い、12歳以下の方、13歳以上の方と時間帯が分かれていたため室内は広々とし、参加される方々も10名程でした。

Aさんは前回、階段を使って5階まで上ったのを憶えているのか、今回はエレベーターの方へ向かわれ、スムーズに移動されていました。会場に着くと、始まるまでの時間は文具を手取るのを繰り返されたり、一度外に出て少し歩かれたりすることもありましたが、「歌を歌ったら、おやつ」の声かけで、時には部屋に戻ることが出来ました。

やはり、円の中の椅子にずっと座っていることや同じ動きをするということが難しく、人数が少ない分、Aさんの動きも目立ってしまいましたが、講師の方が「その場でいいよ」と声を掛けてくださり、Aさんのペースに合わせながら活動していきました。ピアノや様々な楽器、声と音が溢れている空間の中、最後まで参加することができ、時折柔らかい表情で過ごされている場面もありました。音楽に合わせて歌われる場面は少なかったのですが、終了後に部屋を出てから、担当の大学生の方と一緒に「大きな栗の木の下で」を振りもつけて、歌われていました。

様々な方がいる中、普段とは違う環境の中で過ごすことができ、今回も新たに発見、勉強になりました。次回も音楽を通じた時間をAさんと共有できることを、とても楽しみにしています。(小川)



ケアホームナウシカ便り 其の五

シリーズでお伝えしているナウシカに入居されている方の暮らしですが、今回もお一人の方の趣味を紹介させていただきます。

Bさんは空き時間の過ごし方として趣味をお持ちです。懐かしのスーパーファミコンで競馬のゲームをされたり、ご家族と競馬場へ行かれたこともあります。更に、ご自分でもレースを開催されています。もちろん本物の馬ではありませんが、手先の器用なBさんは、競走馬や車、自転車(と思われる形)、さらに、スタートゲートまで全て制作されています。用意するのはペンとはさみと厚紙です。特に3つセットになったプリンやゼリーの台紙になっている紙は使いやすいようで、夕食時に出た紙は必ず部屋へ持っていかれています。その紙にハサミで切れ目を入れてスタートゲートを作られています。本物志向のAさんはゲートも数種類作られ、12頭立てや16頭立て、18頭立てと様々あります。それも計ったように均等に切り込みが入れられていて、フリーハンドで小さなハサミを使って作られたとは思えない正確さです。ゲートが完成すると厚紙や広告、確認が済んだ予定表等を馬や車の形に上手に切り、番号を書き入れます。番号を書き入れ、色が塗られると完成、実況のような話をされながらズレることなく番号順に細い切り込みにそれを差していきます。その競争馬等は、それぞれセットになっていて数十枚がまとめて山にされています。それがお菓子の箱に整列して並べられているのですが、箱に収まりきらないものも床にきれいに並べられています。私たちは掃除の際に分けられた馬が混ざらないように気を付けなければなりません。ここまでのお話ですとBさんはレースが好きな方と思われるかもしれませんが、Bさんは数字が特に気になる方です。日付に関しては数年先までスケジュールが組まれ、毎日の生活でも食事、入浴、エアコンをつける時間も決められています。おそらく、レースは数字で経過や結果が表示されるのでBさんのツボにピッタリ合っているのでしょう。

こういったご本人の趣味に合わせて支援の組み立てを進めていきたいと思っております。(田辺)

社会福祉法人風の谷 平成23年度決算状況報告

(単位:千円)

(1)資金収支計算書(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

区分	収入額	支出額	資金収支差額
経常活動による収支	251,535	186,645	64,890
施設整備等による収支	0	0	0
財務活動による収支	40,380	92,680	-52,300
合計	291,915	279,325	12,590

※前期末支払資金残高 211,137

(2)事業活動資金収支計算書(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

区分	本年度決算	前年度決算	増減
事業活動収支差額	67,412	55,242	12,170
事業活動外収支差額	-1,735	-1,326	-409
特別収支差額	0	0	0
当期活動収支差額	65,676	53,915	11,761
前期末繰越活動収支差額	259,717	205,802	53,915
当期末繰越活動収支差額	325,394	259,717	65,677
次期繰越活動収支差額	278,894	259,717	19,177

(3)貸借対照表(平成24年3月31日現在)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度	前年度	増減	勘定科目	当年度	前年度	増減
流動資産	223,687	217,398	6,289	流動負債	13,910	20,210	63,000
固定資産	498,992	468,669	30,323	固定負債	172,905	188,290	-15,385
				基本金	55,912	55,912	0
				国庫補助金等特別積立金	96,957	104,337	-7,380
				その他の積立金	104,100	57,600	46,500
				次期繰越活動収支差額	278,895	259,718	19,177
資産の部合計	722,680	686,067	36,612	負債純資産合計	722,680	686,067	36,612

(4)財産目録(平成24年3月31日現在)

区分	金額
資産の部	722,680
負債の部	186,815
差引純資産合計	535,865

後援会のページ

暑い夏の夜空に大きな、鮮やかな花火があがりました。

2年ぶりの相模原納涼花火大会。やまびこ工房の屋上でもアイスを食べながら、連日の熱帯夜から解放され、涼しげな風を感じ、みんなで大空を見上げ楽しみました。心なしかいつもより大きく、鮮やかに雲一つ無い空にうつる花火に胸を熱くしてしまったのは私だけでしょうか？何もない事、いつもとおなじ日々が過ぎていく事の幸せを感じた夜でした。

工房の利用者さん、職員さん、家族会のお母様達の協力で、今年もジャム用のブルーベリーが用意され、後援会、家族会のみんなで手作りジャムを作ります。もうすぐ皆様のお手元に届くと思います。楽しみにお待ち下さい。ぶどうやリンゴなどとは違い、暑い時期に一粒一粒小さな粒を摘み取るブルーベリーは1時間もしていると汗びっしょり、大変な作業です。ご協力ありがとうございました。心をこめて作らせて頂きます。

バザーからスタートした後援会の行事をバタバタと終わらせている内にもう10月。子育てをしながら、がむしゃらに走り続けている主婦業、今自分の親の介護まで増え、仕事なら退職もありますが、退職なしの主婦業に強い味方が。退職したお父さん達も年々多くなってきています。ここは大きな助け船とお父さん達の協力を頂き、終わり無き自閉症者支援を共に頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、今後とも後援会へのご協力よろしくお願い致します。風の谷後援会事務局 政野 恵里子



【更新・個人】平成24年6月22日～平成24年9月14日（敬称略）

（相模原市内）

岩崎圭子 川勝登美子 佐藤清一 鹿野徹子 島森隆夫 高橋ツギ 萩原春夫 萩原莉恵子 原徹
松木千枝子 松原麻子 百田紀久男 森合貞雄

（相模原市外）

藤野孝夫（厚木市） 竹花三枝、山本昭子（町田市） 成瀬富子（平塚市） 村岡嘉紀（大和市）
合津紀子（上田市） 村上信治（熊本市） 源新和子（盛岡市） 辺見貴江子（仙台市）
和田真理子、日野資純、日野朝子（静岡市）
松岡ヒサ（弘前市） 佐々木継生（北九州市） 守屋恵美子（大阪府） 下田浄（埼玉県所沢市）
塚本寿子（福井県）

【更新・団体】

（有）伸和トラスト、相模原やまびこ会（相模原市） ワーカーズ・コープ・キュービック（横浜市）

【ご寄付・ご協力】

依知の会 （有）伸和トラスト

他大勢のみなさまありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円／年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345